

放射線診断科 研修で経験が望ましい項目 (minimum requirement)

	X 線写真	日付	回数
A	X 線写真の読影レポートを作成した		
	CT		
A	CT の検査指示を行った		
A	CT 造影剤の注射を行った		
A	CT の読影レポートを作成した		
B	— CT 経験数が 50 例を超えた		
B	— CT 経験数が 75 例を超えた		
B	— CT 経験数が 100 例を超えた		
C	— CT 経験数が 150 例を超えた		
C	— CT 経験数が 200 例を超えた		
C	— CT 経験数が 250 例を超えた		
	MRI		
A	MRI の検査指示を行った		
A	MRI 造影剤の注射を行った		
A	MRI の読影レポートを作成した		
B	— MRI 経験数が 25 例を超えた		
B	— MRI 経験数が 50 例を超えた		
C	— MRI 経験数が 75 例を超えた		
C	— MRI 経験数が 100 例を超えた		
	血管造影・IVR		
A	IVR 検討会に参加した		
A	セルジンガー法によるカテーテル挿入方法を理解した		
A	血管造影後の圧迫止血を行った		
B	緊急 IVR 検査に参加した (有症例時)		
	超音波検査		
A	超音波検査を行った		
	核医学検査		

A	骨シンチグラフィの適応と注意点を説明できた		
A	FDG-PET の適応と注意点を説明できた		
A	核医学検査の読影レポートを作成した		
B	— 核医学経験数が 5 例を超えた		
B	— 核医学経験数が 10 例を超えた		
C	— 核医学経験数が 20 例を超えた		
C	— PET-CT 経験数が 10 例を超えた		
	検討会など		
A	カンサーボードでの画像提示を行った		
A	造影剤の適応、禁忌を説明できた		
A	造影剤の合併症への対応が説明できた		
B	アフタヌーンカンファでの症例提示を行った		
C	学会形式での症例報告をまとめた		

- A 4 週間で経験することが望ましい
- B 8 週間で経験することが望ましい
- C 12 週間で経験することが望ましい